

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	国 語
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	第1の観点 ① 1870語の言葉のリストが用意され、意味・用例を知ることができる、語彙力につなげることができる。 ② 情報と情報との関係の捉え方や、比較や分類、関連付けなどの情報の整理の仕方を、生徒にとって身近な例を題材にして、体系的に学ぶことができるようになっている。 ③ 「読書と情報」「読書への招待」「読書活動」「読書案内」と、生徒が自ら本に手を伸ばし、これからの時代に必要な情報活用能力を育みながら、生徒が興味をもって取り組める活動が設定してある。 第2の観点 ④ 「話す・聞く」において、社会生活を話題にした話し合い活動をする単元が設定されている。合意形成に関する説明や話し合いの具体例が書かれており、生徒が見通しをもって活動に取り組むことができる。 ⑤ 説明的な文章において、本文に意見の根拠となる図表を見ることを促す表記がある。「てびき」により文章と図表の関連が促されており、文章と図を関連付けた学習を進めることができる。 第3の観点 ⑥ 問題解決的な言語活動が多く設けられ、生徒同士が助言し合ったり、議論を通して考えを深めたり、互いの考えを生かして結論をまとめたりするなど、協働して学びを深められるように工夫されている。 ⑦ 教材の冒頭に「生徒の問いかけ」を示している。教材の終わりに学習の「てびき」があるため、見通しをもって学習に取り組むことができる。 ⑧ 教材文の「見通す」に目標、生徒目線で書かれた「問いかけ」が示され、教材末の「振り返る」で生徒自身が確認するようになっている。振り返りには、目標に対して学んだことを振り返るように促している。 第4の観点 ⑨ 「読むこと」の教材と「書くこと」の教材、または「話すこと・聞くこと」の教材がセットで単元構成されているので、異なる領域を併せた指導がしやすく、特に「書くこと」の力を伸ばしやすい。

	⑩各単元は、「読むこと」の教材と、「話すこと・聞くこと」「書くこと」のいずれかの領域の教材及び「知識及び技能」教材で構成されているので、基本的な知識と技能を定着させながら読む力を育める。 第5の観点 ⑪「文法解説」と「資料編」に分かれており、各学年で学ぶ文法事項や言語活動の情報がまとめられている。既習項目の学習に役立てることができる。 ⑫「話すこと・聞くこと」の動画や古文の朗読動画がある。ゲーム・クイズ形式の文法問題があり、生徒が意欲的に取り組める。テーマごとに語彙を検索でき、意味や用例を確認することができる。
三省堂	第1の観点 ①「言葉発見」、「漢字のしくみ」、「文法の窓」、「文法のまとめ」を系統立てて配列することで、言語を習得し、実際に活用していくことがスムーズにできるようにしてある。 ②多様な情報を関連付けながら、現代社会の課題について考えを深められるよう工夫しており、内容が難易度に応じて整理されているので、系統的に学習することができる。 ③各学年の中心的な古典教材、資料編「読書の広場」には、ビジュアル資料を配置し、作品全体への理解や日本の古典芸能についての理解を深めることができる。 第2の観点 ④「話す・聞く」において、学校生活を話題にしたグループディスカッションをする単元が設定されている。話し合いのコツが1年時から系統のかつ具体的に書かれ、見通しをもって段階的に学びを深められる。 ⑤説明的な文章において、本文の内容に関連することを図表で示している。「学びの道しるべ」や読み方を解説したページや動画により、図と文章の関連付け方を理解した上で、学習をすることができる。 第3の観点 ⑥生徒の日常生活や社会生活の課題を取り入れて、学習で身に付けた力が実際の場で生かされるように、話題・題材、知識・技能、活動の具体化を図っている。 ⑦教材の冒頭に学習目標を示している。教材の終わりに学習の「学びの道しるべ」があるため、見通しをもって学習に取り組むことができる。

	⑧教材冒頭で目標を示し、教材末の「学びを振り返る」で、学んだことを自分の言葉でまとめるようになっている。目標で示した項目を「思考の方法」を用いて学習し、自分の言葉で振り返るようになっている。 第4の観点 ⑨「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の教材の複数の領域がセットで単元構成されているので、異なる領域を併せた指導がしやすく、幅広い学習活動や指導の工夫がしやすい。 ⑩各単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の複数の領域からなる教材と「知識及び技能」教材で構成されているので、基本的な知識・技能を定着させながら各領域の力の向上を目指しやすい。 第5の観点 ⑪「文法のまとめ」「資料編（読書の広場）（社会生活に生かす）（参考資料）」がある。全学年共通の「社会生活に生かす」には言語活動に役立つ情報がまとめられており、表現活動の参考にすることができる。 ⑫「話すこと・聞くこと」の活動動画や作文例等を見ることができる。教材に応じたワークシートや、漢字と文法に関するデジタルドリルがあり、生徒が自主的に学習に取り組むことができる。
教 出	第1の観点 ①「言葉の自習室」として「理解に役立つ言葉」、「表現に役立つ言葉」と、文章を読む手がかりになる言葉が一覧となって確認できるようにしてある。 ②各学年とも、本編の情報活用に係る単元、1年「情報を得る」、2年「情報を捉える」、3年「情報を共有する」を設定し、系統的に情報を扱う学習ができる。 ③各学年とも、各単元末と資料編に「広がる本の世界」として書籍紹介を掲載している。資料編の「言葉の自習室」として、読書に関わる教材が複数まとめて掲載されている。 第2の観点 ④「話す・聞く」において、社会問題と学校を関連付けた話し合い活動をする単元が設定されている。合意形成のための話し合いのポイントや話し合いの具体例があり、生徒がイメージをもって学習できる。

	⑤説明的な文章において、内容に関連する図表が示され、本文にも対応する図表が書かれている。よって、対応する図がわかりやすく、見通しをもって学習を進めることができる。 第3の観点 ⑥生活や社会におけるさまざまな課題に対して、他者との協働的な活動の中で、コミュニケーション力を高め、互いの立場や考えを尊重し、よりよい解決を目指す態度と能力を育成できるよう配慮している。 ⑦教材の冒頭に学習目標を示している。教材の終わりに「みちしるべ」があるため、見通しをもって学習に取り組むことができる。 ⑧「振り返り」は「知識・技能」「思考・判断・表現」の振り返りと、「主体的に学習に取り組む態度」の振り返りからなる。目標で示した項目を「学びナビ」を用いて学習し、「振り返り」で確認できる。 第4の観点 ⑨「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の教材の複数の領域がセットで単元構成されているので、異なる領域を併せた指導がしやすく、活動内容の幅が広がりやすい。 ⑩各単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の内、複数の領域からなる教材と知識及び技能教材で構成されているので、基本的な知識・技能の習得と同時に、各領域の目指す力を育みやすい。 第5の観点 ⑪「言語と文法」「言葉の自習室」に分かれている。「言葉の自習室」には語彙集とテーマ集があり、表現活動の参考にできる。 ⑫二次元コードのある教材では、教材の解説・関連資料を見ることができ、単元の学習の参考にできる。
光 村	第1の観点 ①資料として「語彙ブック」があり、描写・言動・思考・コラムという分類で学年に応じた語句が整理されている。また、デジタルコンテンツで「言葉の宝箱（小学校）」が見られる。 ②「情報整理のレッスン」・「思考のレッスン」と段階的に情報の整理の仕方を学習できるように、問いの内容に関連性をもたせている。 ③「読書活動」「読書」「読書案内」「コラム」と、生徒が本を身近に感じられる活動の紹介、同世代の登場人物を扱う著名人の本紹介があり、テーマに応じた本が選べるよう段階的に取り上げられている。

第2の観点

- ④「話す・聞く」において、学校生活を話題に会議を開く単元が設定されている。合意形成の説明や話し合い例にポイントが示されており、身近な題材をもとに、見通しをもって話し合い活動を行うことができる。
- ⑤説明的な文章において、内容に関連する図表が示され、本文にも対応する図表が書かれているため、対応する図を理解して学習に取り組むことができる。

第3の観点

- ⑥自ら課題を発見し解決を目指して主体的に取り組めるよう、構成は、全体を見通し、学習を調整しながら個→集団→個で対話的に理解を深め、学習を社会生活や他教科に生かすことができる。
- ⑦教材の冒頭に学習目標を示している。教材の冒頭に「学習活動」を示している。教材の終わりに「学びへの扉」があるため、見通しをもって学習に取り組むことができる。
- ⑧学習目標に即した振り返り、学びを生かす振り返りが掲載され、目標で示した項目を「学びのカギ」を用いて学習し、「振り返る」で確認するようになっている。

第4の観点

- ⑨「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の教材の複数の領域がセットで単元構成されているので、異なる領域を併せた指導がしやすく、多様な学習活動がしやすい。
- ⑩各単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域と知識及び技能の内、複数の領域で構成されているので、単元、領域の力を育みつつ、関連した基本的知識・技能の定着を図りやすい。

第5の観点

- ⑪「文法」「資料編」以外の「国語の力試し」には、身に付けた力を活用して解く問題がある。また、「語彙ブック」は、生徒の語彙を豊かにし、表現の幅を広げることに役立つ。
- ⑫教材ごとの二次元コードで動画や関連資料を見ることができるほか、C B T（コンピュータを使用した試験）形式の問題があり、解答のテキスト入力・自己採点ができ、生徒の学習に役立つ。